

形容詞と形容動詞

※ネット講座と合わせて学習しよう。

学習日
/

この講では形容詞、形容動詞を取り上げます。この両者はそれぞれ以下のような性質を有しています。

形容詞

言い切ったとき、単語の終わりが「い」になる。物事の性質や状態を表す（美し「い」、青「い」など）。

形容動詞

言い切ったとき、単語の終わりが「だ」「です」となる。物事の性質や状態を表す（静か「だ」、豊か「です」など）。ただし「学生だ」は名詞＋助動詞で、「静かだ」が形容動詞となる。

例題 次の文を品詞分解してみよう。

- ① 海は青い。
- ② 教室は静かだ。
- ③ 彼は学生だ。

形容詞は言い切ったとき単語の終わりが「い」（美し「い」、青「い」など）になります。一方、形容動詞は言い切ったとき単語の終わりが「だ」「です」（静か「だ」、豊か「です」など）となります。「学生だ」は名詞＋助動詞で、「静かだ」が形容動詞一語というのを見分けが難しそうですが、「学生」「海」「学校」など人の気分に関わりなく、意味や位置づけが変わらない場合は名詞、「静か」「豊か」など人の気持ちで意味や位置づけが変わるならば形容動詞と考えるとよいでしょう。より簡単な見分け方としては上に連体詞の「とても」などを付けて成り立つならば「形容動詞」、成り立たないならば「名詞」です。「とても静かだ」は成り立ちますが、「とても学生だ」という表現は成り立ちません。

- ① 海 名詞 / は 助詞 / 青い 形容詞 。
- ② 教室 名詞 / は 助詞 / 静かだ 形容動詞 。
- ③ 彼 名詞 / は 助詞 / 学生 名詞 / だ 助動詞 。



現代社会を生きるうえで、最も重要なことは何だろうか。努力すること？ 礼儀正しくすること？ それとも、だれかを愛すること？ もちろん、ここに挙げたことは、とても大切なことだ。しかし、それよりもっと大切なことがある。それは、何かを懸命に「選ぶ」ことである。

ほんの三十年ほど前、今の高校生の親の世代の世界は、比較的単純な原理で成り立っていた。はじめに勉強すること、周囲の人間に合わせる、年長者の言うことには従うこと、こういった暗黙のルールを守って、はじめに生きていけば大人になって幸せになると教えられて成長した（もちろん例外は多数存在する）。

しかし現代は、大量の情報に囲まれ、単にまじめだけでは高く評価されない社会になってしまった。まじめであると同時に、他の人とは違った自分の強みを持つことを時代は求めるようになったのである。将来何をすればいいのか、自分の目標は何なのか、こういった素朴な、それでいて解答を導き出すことが困難な問いが、現代の若者には覆いかぶさっている。

ある子供は親の視線に包囲され、幼い頃から習い事や勉強を押し付けられ、自分で考えることのない、迷路のような道で「努力」を重ねている。一方で、ある子供は表面的な楽しさや美しさばかりを求め、他の多くの人に合わせる生き方ばかりを選んしまい、自分で何かを考え、自分の世界を探し出すことを避けている。

これでは人生の先行きは暗い。現代のような多様化した社会では、自分に合った世界で努力を重ねることが求められる。ということは、努力の前に、常に、自分に合った世界を探し出すことが求められているのだ。

真剣に選び、決断し、自分の前に自分の選んだ世界が広がった時に、人は努力を始める。納得したうえで世界を選び、その世界に好感を持つからこそ、私たちは自分の足で歩き始めるのだ。

私たちはいざ自立しなければならぬ。自分の足で立って、自分の身を自分で支えなければならぬ。そのためには自分の人生と向き合い、まず自分の世界がどこにあるのか、探し出すことを始めなければならない。そしてだからこそ現代を生きる若者には、まじめであることと同時に、いやそれ以上に、自分の人生の道を真剣に考え、何かを選ぶという行為を重く受け止めなければならないのだ。



現代社会を生きるうえで、最も重要なことは何だろうか。努力すること？ 礼儀正しくすること？ それとも、だれかを愛すること？ もちろん、ここに挙げたことは、とても大切なことだ。しかし、それよりもっと大切なことがある。それは、何かを懸命に「選ぶ」ことである。

ほんの三十年ほど前、今の高校生の親の世代の世界は、比較的単純な^①ケンリで成り立っていた。まじめに勉強すること、周囲の人間に合わせることに従うことには従うこと、こういった暗黙のルールを守って、まじめに生きていけば大人になって幸せになると教えられて成長した（もちろん例外は多数存在する）。

しかし現代は、大量の情報に囲まれ、単にまじめなだけでは高く評価されない社会になってしまった。まじめであると同時に、他の人とは違った自分の強みを持つことを時代は求めるようになったのである。将来何をすればいいのか、自分の目標は何なのか、こういった^②ソボクな、それでいて解答を導き出すことが困難な問いが、現代の若者には覆いかぶさっている。

ある子供は親の視線に^③ホウイされ、幼い頃から習い事や勉強を押し付けられ、自分で考えることのない、迷路のような道で「努力」を重ねている。一方で、ある子供は表面的な楽しさや美しさばかりを求め、他の多くの人に合わせる生き方ばかりを選んでしまい、自分で何かを考え、自分の世界を探し出すことを^④サけている。

これでは人生の先行きは暗い。現代のような多様化した社会では、自分に合った世界で努力を重ねることが求められる。ということは、努力の前に、常に、自分に合った世界を探し出すことが求められているのだ。

真剣に選び、決断し、自分の前に自分の選んだ世界が広がった時に、人は努力を始める。納得したうえで世界を選び、その世界に好感を持つてこそ、私たちは自分の足で歩き始めるのだ。

私たちはいずれ自立しなければならぬ。自分の足で立つて、自分の身を自分で支えなければならぬ。そのためには自分の人生と向き合い、まず自分の世界がどこにあるのか、探し出すことを始めなければならない。そしてだからこそ現代を生きる若者には、まじめであることと同時に、いやそれ以上に、自分の人生の道を真剣に考え、何かを選ぶという行為を重く受け止めなければならないのだ。

問題

問一

①～④のカタカナの表現を漢字に直せ。

- ① () ② () ③ () ④ () ()

問二 次の①～④の文の形容詞、形容動詞をすべて抜き出して□で囲み、横にその品詞名を書け。

- ① ほんの三十年ほど前、今の高校生の親の世代の世界は、比較的単純な原理で成り立っていた。
- ② 解答を導き出すことが困難な問いが、現代の若者には覆いかぶさっている。
- ③ これでは人生の先行きは暗い。
- ④ 何かを選ぶという行為を重く受け止めなければならないのだ。

問三 次の①～④の中から本文の内容と一致するものを選べ。

- ① 三十年前の子供は年長者の示す暗黙のルールを守って、まじめに生きていけば大人になって幸せになることができた。
- ② 現代は、大量の情報に囲まれているがゆえに、まじめに生きるだけでなく、どの世界で生きていくのかを真剣に選ばなければならないようになった。
- ③ 親の視線に包囲され、様々なことを押し付けられると、表面的な楽しさや美しさばかりを求め、自分というものを見失ってしまう。
- ④ 人は何かに打ち込み、努力を始めると、真剣に選り、決断することができるようになり、新しい世界を手に入れることができる。